

震災から6ヶ月 復興ニュース特別号

元気です！ 松島医療生協

発行日 2011年9月11日 発行責任者 松島医療生活協同組合 専務理事 青井克夫

3月11日の史上例をみない大災害から6ヶ月がすぎました。4月30日で全国からの支援も終わり、これからは自分たちで何でもとりくまなければならないと決意してから4ヶ月がすぎました。今、あらためて全国から寄せられた支援に心から感謝と御礼を申し上げたいと思います。

現在、松島海岸診療所もほぼ以前通りに回復し、「なるせの郷」も8月8日に建物も整理し更地になりました。7月23日には遅れた総代会も無事終わり、失った介護施設を新しく松島の地で建設しようとして取りくんでいます。支援者の皆さんで全組合員訪問をしていただき組合員に大きな元気を与えていただいたことは、これからの私達の活動にとって、なによりの支えになると思います。そして、災害復興事業としての「介護施設の建設」の成功が、全国の支援者の皆さんに対する何よりの御礼の「証し」だと思っています。



松島医療生活協同組合
理事長 大友 昌



松島医療生活協同組合
専務理事 青井克夫

大震災から早6ヶ月、振り返ってみると昨日の様に、遙か昔の様な事に感じる複雑な心境です。大震災直後から、全国から押し寄せてきたご支援と励ましに紙上からではありますが心から大きな声で「ア・リ・ガ・ト・ウ」。

管理者の一人として、「押し寄せた」支援者や支援者を送り出してくれた全国の仲間の気持ちに十分に応えきれなかった事も少なからずあり、申し訳なく思っています。

被災直後は、職員・利用者さんの安否と生活再建、事業所の存続の危機、倒産の不安など、外面では「大丈夫」と我を張っていたと思います。内心は重圧で押し潰される状態でしたので、支援が疎ましく感じる時もありました。しかし、次々に来て下さった様々な支援や励ましが、その重圧を押し除けてくれた原動力であったと確信できます。

大震災後の言葉に言い表せない過酷な状況の中で奮闘した職員と、理事・組合員の皆様に敬意を表します。そして、全日本民医連と日本医療福祉生協連の一員であることに誇りを感じています。

この「140文字メッセージ」(字余りが多いですが)は予定に反して小冊子になってしまいましたが、大震災の状況、復興・再建状況、「感謝の言葉」が綴られています。ご一読ください。

今後とも、被災地と松島医療生協へ物心両面のご支援をお願いいたします。



松島海岸診療所
所長 山崎武彦

7月下旬から、「高齢者にやさしい診療所づくり」の取り組みとして「転倒防止キャンペーン」に、内科職員一同張り切って取り組み始めました。昨年取り組んだ第1弾「物忘れ予防キャンペーン」に続く第2弾です。

震災直後、ヘドロに浸かった1階の診療スペースはそのままに、玄関と階段だけ通れるようにして2階の仮診療室で診療を再開した時には、日常診療の再建・復旧さえ、いったいいつ可能になるのか全く見通しが持てませんでした。それが、こんなにも早く以前と同様の診療ができるようになり、さらに、新しい取り組みを開始しようというところまでこれたのは、本当に、全国の支援のおかげだと思います。

確かに震災の被害は、人的にも物的にも大きなものがありました。が、こうして全国の皆さんの支援もいただきながら乗り越えてきてみると、職員の団結も、患者さんや組合員さんたちと医療生協・診療所との絆も、震災前よりむしろ格段に強くなっているように感じます。「災い転じて福となす」くらいの気持ちで、これからも頑張っていく決意です。引き続き応援よろしくお願いいたします。

この震災で大津波は松島医療生協にも甚大な被害をもたらしました。もともと先のみえない歯科はさらに未来が見えなくなりました。

機材の浸水に加え、全面のヘドロ、カルテも……………。

もうどうしてよいかわからなかったです。

職員の心に与えた傷も深く、退職者も出ました。

歯科は、縮小の道を選ばざるを得ませんでした。

しかし、

そうは言っても現在、歯科として診療を行えています。

そして、これからどうしたらよいかを
考えることができるようになりました。

皆様からの支援があったからこそです。

たくさんの支援に感謝しています。ありがとうございました。

これからも復興に向けて様々な課題はありますが、1つ1つ乗り越えていきたいです。



松島海岸診療所
歯科所長 久中聖史

「分け愛う」

あの未曾有の大震災から、6ヶ月が過ぎようとしています。震災直後より全国から沢山の方々に御支援をいただき、心より深く感謝申し上げます。

当訪問看護ステーションも、庄内医療生協さんを始め、支援に来てくださいました看護師の方々の応援や、数多くの支援物資により、在宅で療養される利用者・家族に安心を届け、励まし合いながら、困難を乗り越えることが出来ました。

私たちスタッフにとっても、どれほど心強かったか。人と人との繋がりをこれほど感じた事はなかったような気がします。

一つの食べ物を分け合い、悲しみや苦しみを分かち合い、自分たちの事よりも周囲の人に気遣い優しさを分かち合った、「分け愛う」。人として一番大切な部分で支え合うことが出来ました。

今後、私たちに出来ることは、感謝の気持ちを忘れず松島医療生協が一つとなって、復興に向けて、前に進んでいくことです。

「絆」という繋がりを得、これからも途切れることなく、未来へ繋いでいけるよう、今まで同様、被災地に向けて、皆様の想いを届けていただければ幸いです。



訪問看護ステーションまつしま
所長 岩淵 純子

あの震災から6ヶ月が経つと聞き、もうそんなに月日が過ぎたのかと思う反面、今でも昨日の出来事のように鮮明に思い出す事ができます。

震災直後、デイケアの利用者さんを職員と避難させ、近くの旅館に何泊かし無事家族の元に送り終わるまでには、本当に精神的にも肉体的にも疲労が溜まっていました。ですが、この震災で不安な時だからこそ、利用者さんの前では皆で励まし合い笑顔を絶やさないように、とにかく無我夢中でした。

同時に、なるせの郷の被害状況を目の当たりにし、涙を流す事さえも出来ず、とにかく両方の利用者さんと職員の安否確認、メンタルケアなど目の前の状況処理をするだけで手一杯でした。

支援隊の方々が来てくださっているのに、自分達の事で手一杯でありがとうの一言も言えずじまいでした。

デイケアが再開した後も、エレベーターが津波により浸水し動かない中、二階にあるデイケアの部屋に行くには二十段もある階段を上らなければならない。支援隊の方に利用者さんの手を引いてもらい一緒に上がった、車椅子に利用者さんを乗せ支援隊の方々4人の人力で上げてもらうなど、本当に有り難い支援をしていただきました。

デイケアに参加して得意の踊りを披露してくださったり、津波の事で気持ちが沈んでいた利用者さんに寄り添い励ましたり、支援隊の方々が地元の話や自分の故郷の話をしてくれ、少しでも安心して帰る利用者さんの顔を見て、あの時、私達の気持ちがどれだけ救われたか、本当にありがとうございました。これからも、全国の皆さんからの沢山の支援に心から感謝し、無理をせずみんなで支え合いながら一歩ずつ、ゆっくり復興へと向かい進んで行きたいと思います。



通所リハビリ おたしゃディ
主任 石渡さおり



介護相談センター
センター長 安部加代子

東松島市野蒜の「なるせの郷」で震災に遭いました。4mの津波にのまれて全身瓦礫の中を数百メートル流されました。その時の恐怖、臭い、味、寒さなどなど、言いようもない体験をしました。

もう駄目と何度か思いましたが、幸運にも生かされました。

抜け殻のようになった私を、同僚の仲間が「生かされた命なので大事にしてください」といたわってくれました。松島海岸診療所に全国から支援に来た方々がたくさん居て心強く感じました。人に見守られている、支えられている、一人ではないと励まされました。

でも、あの時は自分から話したり、挨拶など出来ない様なショック状態でした。この場を借りてお礼を言わせていただきたいと思います。一緒に居てくれる人がいることがこんなに心強いとは思いませんでした。

6ヶ月が過ぎ何とか自分を取り戻しました。仲間が居て、仕事があり、家族が居る生活にもどりました。最近私は何をするために生かされたのかを考えています。答えは見つからないのですが、日々考えてみます。

皆さんの支援に感謝します。いつか、どこかで、恩返しをしたいと思います。本当にありがとうございました。



松島海岸診療所玄関脇のグリーンカーテンと御礼メッセージ

松島医療生協の被災概要

松島医療生活協同組合は、松島海岸診療所（所在地は松島町松島、医科、歯科、通所リハ、訪問看護ステーション）、なるせの郷（所在地は、東松島市野蒜、デイサービス、居宅介護支援）、訪問看護による訪問先（グループホーム）、個人宅）、臨時職員の研修先石巻市内の4ヶ所で東日本大震災の被災を受けました。

この震災で、なるせの郷で当日の利用者17名中12名、職員8名中3名の人的被害と、施設や医療機器等数千万円の物的・経済的被害を受けました。

なるせの郷の地区では、地震直後から、停電で防災無線が機能しない中、隣にある公民館に地元の人が炊き出しの準備のために人が集まり、更に、隣の指定避難所の小学校体育館に避難してくる人と車で付近の道路は大渋滞になっていました。ただならぬ状況を察し、送迎車両3台に13人（運転手含む）を乗せて順次避難を始めた時に津波が押し寄せました。2台は小学校校庭から小学校校舎の方に流され、校舎2階のテラスから運転手も含め6名が救出されました。自動車での避難に間に合わなかった利用者7名と職員5名は、なるせの郷2階等に避難を開始しましたが、体の不自由な利用者や車椅子利用者を避難させることは困難を極めたとのこと。津波は瞬時に1階天井まで押し寄せ、避難できなかった利用者4名、職員2名が施設内で犠牲になりました。2階にかろうじて避難した職員は、津波に流されてきた地域の人5名を窓から救出しました。

松島海岸診療所では、医科は3時からの診療開始前であり待合室に数名の患者がいました。歯科は、診療室内で数名の患者さんの治療中でした。大きな揺れが治まった後、患者さんを避難誘導し駐車場に避難しました。通所リハビリでは利用者13名がいましたが、地震発生時は、声掛けを行いながら利用者の安全を確保しました。揺れが治まってから、利用者は車いすのまま2階から1階に運ぶなど全員避難をしました。たまたま来ていた、出入り業者からラジオ放送で「大きな津波が来る」との情報を得られ、管理者の掛け声による避難指示で、高台にあるホテル新富亭に避難をしました。前後して町の防災放送から「大津波警報、高台に緊急避難」の指示が鳴り響き出しました。診療所付近の在宅酸素療法者や寝たきり高齢者など4名の避難も援助しました。松島海岸診

療所は、津波で床上30cm以上の浸水で泥まみれになりました。

訪問看護師4名は、グループホームや利用者宅でサービスを提供していました。震災直後、1名はグループホームに応援に行き、1名は在宅酸素療法利用者宅を緊急訪問し、診療所のスタッフとホテル新富に避難をしました。避難途中で訪問看護車が津波に巻き込まれた職員は徒歩で避難しました。

石巻市の研修先で被災した臨時職員は、自家用車、タクシー、徒歩でなるせの郷に向いましたが、地震・津波による浸水で途中の保育所で一夜を過ごしました。翌朝、なるせの郷に到着し、悲惨な状況を目にしました。

松島海岸診療所となるせの郷との連絡は、地震直後のみメールで情報交換が出来ましたが、その後一切連絡が取れなくなりました。停電のため緊急電話回線も通じませんでした。

地震直後に、非番の職員2名がなるせの郷に向いましたが、なるせの郷も前にある野蒜小学校の校庭も津波による海水が溢れており近づけない状況でした。松島とも連絡が取れず、松島も同じ状況かと思い、落胆して自宅に帰りました。

11日の夜になり、非番であったなるせの郷の職員から、「なるせの郷の2階に何人か避難している」との情報が断片的に入ってきましたが、携帯電話やメールの交換のアクセスが最悪で正確な情報収集が出来ませんでした。

被災翌日（3/12）、ホテル新富亭に避難していた帰宅可能な利用者を帰宅させました。その後、なるせの郷の状況を把握するために現地に赴きました。「なるせの郷」の建物の中で、遺体数体があることを確認したので、救援活動中の自衛隊に対応をお願いしました。しかし、「生きている可能性のある人が先だ」と後回しにされました。

夜になり、なるせの郷で被災し助かった職員がホテル新富亭に来て、被災当日の「なるせの郷」の被災概要をようやく掴むことが出来ました。

13日以降は、医科・歯科・介護が任務を分担し、事業再開、地域支援に取り組みを始めました。14日に医科は診療再開し、数日後には歯科も急患対応を始めました。介護部門は、職員と利用者の安否確認の対応に追われていました。

3月11日後の支援活動の特徴について

震災の夜から、山崎所長を先頭に臨時避難所になった「ホテル新富亭」で急患対応や健康相談に精力的に取り組みました。又、訪問看護師は安否確認を行いながら、在宅患者の健康管理に奔走するなど、医療・介護に携わる職員として奮闘しました。大津波で診療所の1階は、ヘドロで埋まり診療再開は厳しい状況でしたが、支援者の力も借りて14日から2階のデイケアに臨時診療所をつくり、つばさ薬局の協力を貰い「お薬」外来を開設しました。介護事業所の職員は介護部長を先頭に、津波被害の「なるせの郷」の職員と、当日利用者の全員の安否確認と、家族との連絡や説明に、連日奔走しました。



支援者のスナップ写真

全国からの支援は13日から始まりました。全日本民医連や日本医療福祉生協連の仲間が、次々と、続々と、駆けつけてくださり、支援活動に取り組んでくれました。支援は、4月30日まで診療所を拠点に、支援者と理事・職員が協力し、更に自治体とも連携を取りながら行いました。支援内容は多岐に渡り、医師や医学生も含め診療所や地域でのヘドロ掻き、松島町や東松島市の避難所への医療支援、組合員さんを含む地域訪問などを行いました。歯科は、石巻市の避難所まで訪問が広がり、応急処置や口腔内感染予防等行いました。

全日本民医連は坂総合病院を宮城県の拠点として支援活動を開始しましたが、被災地域が広大な為、松島にもサブ拠点が置かれました。常駐担当者が配置され、全国からの支援者の受入、支援活動の振り分けなど、50日間に及ぶ支援活動でした。



毎朝、夕方におたっしゃデイ利用者を1階～2階の階段を運ぶ支援者

3月16日から終了日までの支援者は北海道から鹿児島までの238名に上りました。支援者は3日間から1週間程度滞在し、多い日は50名近い日もありました。

特に、松島との窓口になった庄内医療生協と、医療福祉生協連から派遣してくれた常駐者には大変お世話になりました。

(13日～15日の支援者は、医療福祉生協連の理事長と専務、全日本民医連会長、鹿児島医療生協や山口健文会の理事長先生などを先頭に50名以上駆けつけて頂きました)

支援物資は、診療所(医科、歯科)の医療維持の為に連日届けられました。更に、全国からの様々な支援物資は、主に松島町に届けられ、社協を通して被災者に配布されました。



通所リハビリで「花笠踊り」を披露した山形県の仲間

心温まる支援の一コマの紹介 (数えきれない中から、一部のみ紹介になり、ごめんなさい)

8月11日放映の「NEWS ZERO」で、東日本震災後の松島海岸診療所・通所リハの取り組みが放映されました。内容は、東松島市野蒜にあったなるせの郷が津波により被災したこと。通所リハで定員を拡大し被災した利用者にサービスを提供していること。被災により職員の体調が思わしくなくとも、周りの職員が暖かく支えていること、来年の4月を目指し新しいデイサービスを建てることなどでした。

「NEWS ZERO」を見ていた横須賀的野さんが8時間かけて、「親が使用していた電動ベッド(3モーター)を利用してほしい」と持って来て下さいました。



また、**愛知県に**

住むフルタイム勤務で働きながら、わんぱく盛り3人の子育て中の深澤さんから、「今なお、[あの日]の思いを拭い去れないばかりか、ご自分を責め続けながら毎日暮らしている職員さんの様子を、胸が詰まる思いでテレビを見ていました。」、「ただ、どうしても、「幸せに生きること、後ろめたさなど感じないでください。」とお伝えしたくて」とメールとCDを送っていただきました。



「うちわ」の支援

4月に長野県松本協立病院から支援に来てくれた秦泉寺(じんせんじ)さんが、地元の松本の小学校で授業の一部として「支援の体験報告」をおこないました。その授業を受けた松本市立菅野小学校4年3組の子供たちが、自分たちにできる



支援は何かと考え、みんなで「うちわ」を集めて支援物資として送っていただきました。

「うちわ」は、仮設住宅での血圧測定班会やケアマネージャーが利用者さん宅を訪問するときに、必要な高齢者などに送っています。残暑が厳しくなる中、大変喜ばれています。

堺市から「アコちんどん」がやってきた!

6月25日午後、「アコちんどん」こと野中晴夫さんが通所リハで「アコーデオン・歌声」を披露し、利用者さんと共にあたたかいひと時をすごしました。

その後、「利用者に優しい施設は、スタッフも音楽ボランティアにも優しい設備からと」エレベーター修理費の一部にと義援金を送ってきました。



エレベーターは7月6日に直りました。ありがとうございました。

失った「なるせの郷」への想いと、松島医療生協の希望をカタチに

「(仮称) まつしまの郷」建設計画 (案)

松島医療生活協同組合 理事会

2011年3月11日の東日本大震災の大津波で失った「なるせの郷」の再建・復興することを、7月の松島医療生協第46回総代会で確認しました。建設計画(案)の詳細については現在検討を進めています。9月24日に臨時総代会を開催し「(仮称)まつしまの郷」建設計画(案)を討議する予定です。臨時総代会で承認後、10月に建設に入り3月完成をめざしています。

計画(案)の概要は以下の通りです。(今後、若干の変更や見直しはあります。)

この計画は、2011年3月11日の東日本大震災の津波で失った東松島市野蒜「なるせの郷」の再建を目的としています。「なるせの郷」は震災前まで「デイサービス・ひなたぼっこ」と「松島医療生活協同組合・介護相談センター」の事業を行っていました。野蒜地域は浸水地域であることと、地域復興の先行きが不透明であり、事業所を松島町に移し再建し利用者の要望に応えた建設です。加えて、松島海岸診療所も床上浸水被害による事業機能の一部移転が迫られており、その機能も合わせた介護の複合事業所として建設します。

更に、将来、東松島市等で介護事業所を再開の検討をする為にも、松島医療生協の介護事業強化と介護分野での職員育成は、その礎となる事業です。

「計画概要」

- 1) 「なるせの郷」の再建と、松島海岸診療所「デイケア」機能を合わせたデイサービス施設を中心とした施設を建設します。「(仮称)まつしまの郷」とします。
- 2) 新しい施設には、新しいデイサービス事業(1階)に加え、2階に訪問看護ステーション、介護相談センターも移転します。条件が整えば訪問介護事業(ヘルパー)を行います。また、1階に組合員も使用できる多目的室を設けます。
- 3) デイサービスの定員は30名とします。(なるせの郷は定員25人、松島海岸診療所デイケアは定員20名でした)
- 4) 建設場所は、松島町高城で松島高校の近くです。2012年3月末までの開設をめざします。

- 5) 施設は、鉄骨づくりで、災害(地震や水害など)にも強い施設をめざします。

「どのような施設をめざしているのか」

- 1) 高齢になっても住み慣れた地域で安心して、その人らしく暮らし続けることができように応援する施設をめざします。
- 2) 組合員や地元住民も気軽に立ち寄り、組合員活動やボランティア活動の拠点となるような施設をめざします。
- 3) 感染症対策や自然災害にも強い施設をめざします。

「どのようなデイサービス提供を

めざしているのか」

- 1) 利用者・家族間の交流と、組合員やボランティアも運営参加ができる「医療生協らしいデイサービス」をめざします。
- 2) 利用できる利用者は、要支援・要介護の認定を受けた方で、「歩行~車いす(座位確保)までの方」と、「軽度~中程度の認知症の方」を対象とします。
- 3) 通所リハビリ(デイケア)と同様に、作業療法士等による機能訓練(リハビリ)も提供します。
- 4) 入浴は、一般浴槽とイスに座ったまま浴槽に入れる2つの浴槽で提供します。
- 5) 利用者が高熱や感染症等で体調を崩した時、隔離できる静養室も備えます。

「多目的室について」

組合員が健康づくりや班会などでも使用できる部屋です。運営や使用基準は、今後、組合員で議論・検討していきます。夜間、休日にも利用できるシステムを導入する予定です。



今年も松島海岸診療所の
玄関脇の窓で子育てする
ツバメたち。

「ありがとう！」をカタチに 140文字メッセージ

このたび全国の仲間の皆さんから沢山の支援いただきありがとうございます。感謝しております。

いろんな出会いあり、お話したいことは沢山ありますが、私が一番、感動し、嬉しかったのは、皆さんが全組合員訪問に取り組んで下さったことです。多くの組合員から、「ありがとう。医療生協の組合員になって



良かった」との感謝の気持ちが届いております。遠くから支援に来てくださったことに本当に頭の下がる思いです。

これから大変な復興の道のりですが、組合員さんの大きな力になることと信じています。

副理事長 青木幹子

津波がやってきた



3月11日、東松島市野蒜にいた職員3人・「なるせの郷(デイサービス)」の利用者12人が津波に飲み込まれて亡くなった。松島海岸診療所も津波で一階部分が飲み込まれ医療機器は全部ダメになった。水もない、ガソリンもない、電気もない、食料もない。診療所の

一階は使い物にならない。それでも診療所を頼って患者さんがやってきた。医師や看護師やスタッフは、自宅にも帰らず、二階部分を改良して診療にあたった。数日後、全国から支援のボランティアの人々がやってきた。水と食料とガソリンと支援物資を積んで、元気にやってきた。うれしかった。やっと助かったと思った。そして、医療福

祉生協連・民医連はすごいと思った。行政は、まだ、細部まで行き届いた活動は出来ていなかった。

理事の私は、津波で車を流されたがボランティアで約二ヶ月、毎日診療所に足を運んだ。二ヶ月過ぎた頃、妻は「そろそろ自分の家も片づけたら」と言った。二階の書庫はめちゃくちゃになったままだった。今でも、仙石線は高城駅止まりで、石巻方面は野蒜の当たりで線路が曲がったままで、復旧の見通しもたっていない。野蒜の町一つがゴーストタウンになっている。しかし、松島海岸診療所は、見事に復旧した。さらに新しい計画に取り組んでいる。

常任理事 名雪英三

ご支援ありがとうございました。



絶望と不安、仲間を失った悲しみの中で、私達職員を支えてくれたのは被災後いち早く全国から駆け付けてくれた支援者の皆さんでした。

ヘドロ除去と清掃、カルテ整理、デイ利用者の運搬、組合員や地域への訪問、支援物資の数々、そして

て励ましのメッセージと・・・復興を願う皆さんの熱い想いに心より感謝致します。

復興までの道のりは長く険しいけれど、希望の絆を胸に私達は一步ずつ再建に向けて前進していきます。

今回の支援を永遠に忘れません！

「ありがとうございました」

医科事務長 佐藤良治

3月11日から、月日は経って、春が過ぎ、夏を迎えています。その日で足踏みしている自分があります。皆様いただいたあたたかい御支援に感謝しています。

ありがとうございます。

外来看護師長 高橋静子

あれから6ヶ月たったのですネ！早いものです。

これまで元の診療に戻り、生活・仕事ができるのは全国から来ていただいた支援の皆様のおかげです。当初は、物もない事と寒さでどうなっていくのだろうと不安の毎日でした。しかし、皆さんが復興のために一生懸命頑張っていた姿を見ると私たちも頑張らねばと元気もいただきました。また、義援金・寄付金もありがとうございました。

今は普通の生活に戻り、みんなで力を合わせて仕事やっています。本当にありがとうございました。

☆今回、夢を購入しました（復興宝くじです）あたりますように！

医科外来 菊地利江



大津波による野蒜の大惨事は悔やみきれない。27年前、そこは地域に根づいた歯科診療所として発足した。8年前、事件を起こして閉鎖してしまった。私の責任は重かった。そして今、高齢者となった私は、この地域を駆け巡る訪問歯科医として、「地域への貢献」を胸に活動し続けていきたいと思っている。



歯科医師 井上 博之

震災後、常に体が揺れている感じと、落ち着けない状況が続いていましたが、全国から多くの方に支援に来て頂き、とても心強く、負けるものか！と強い気持ちを持つ事が出来ました。本当にありがとうございました。これまで以上に患者様の元気な姿交わず言葉に、感謝・感謝の毎日です。

医科事務 本田いづみ

全国からの支援、本当に有難うございました。心はほとんど折れていましたが、皆さんのお陰で立ち直れたと思います。災害は誰にでもふりかかってきますので、十分に備えてください。そしてその時には、私たちが助けに行きます！

医科事務 高橋啓介



あれから6ヶ月！！皆さんの支援のおかげでいつもどおりの生活で、家族とも元気に毎日を過ごしています。

「全国の皆さん支援ありがとう！！

声をありがとう！！

支援の輪をありがとう！！」

医科外来 小野 香

全国から支援に来ていただいた皆様、義援金・寄付金を送っていただいた皆様ありがとうございました。泥まみれの診療所をみて、これからどうなるのだろうと不安でしたが、支援に入っていた方の方の力により、元どおり(それ以上)きれいになり、診療をはじめることができました。震災により奪われた仲間の分まで力を合わせ、頑張っていきたいと思います。

震災から6ヶ月が過ぎ振り返ってみて、改めて被害の大きさを感じました。今回の地震により全国の民医連や医療福祉生協連の皆様が支援に駆けつけていただき心より感謝します。毎日のように支援物資が松島海岸診療所に届きました。本当にありがとうございました。

常任理事 桜井 昭

震災から5ヶ月が過ぎ、念願のエレベーターも直り、ディの毎日も少しずつ震災前の日々に戻りつつあります。災害でエレベーターが使えなくなり、支援の方々に朝と夕方に何人もの車椅子を担いで1階と2階の往復をお願いし、本当に感謝しています。頭が下がる思いでいっぱいです。今は、人数も増え、大変ながらも、少しずつでも前進しています。支援していただいた御恩に負けない様、頑張っています。

通所リハ 丹野さた子

震災から6ヶ月。月日は早いようで、でもまだ6ヶ月というのが今の私の心情です。

今、私たちは前に向かって一生懸命歩んでいます。震災時は不安でどうしようもなく、そんなときに全国から支援に来ていただいて、本当に助けていただき、「ありがとう！」の気持ちでいっぱいです。少しずつ復旧していき、支援の方の手をかり、車椅子の利用者さんを2階に上げていただいたり、いろいろありますが、私たちだけではとても大変でした。

今、こうゆう時こそ、助け合いの心というのを強く感じます。本当にありがとうございました。

通所リハ 土井弘子

この震災で、東松島市にあった自宅は被害を受け、家族だけで片付けをしていました。とても家族だけでは無理と思っていた時、医療生協の方に片付けをしていただきました。とても感謝しています。

ありがとうございました。

まだ、なんでこの生活をしているの？と思うことがたくさんありますが、一步一步前へ進んでいきたいと思っています。

通所リハ 菅原伸江

震災を振り返ると、改めて被害の大きさを感ずますが、復興の中でも笑顔の瞬間があり、人の和を感じない日はありませんでした。あの時を乗り越える事ができたのは、支援して頂いた皆様、各地からエールを送ってくれた皆様のおかげと感謝しております。

ありがとうございました。

通所リハ 阿部真利子

震災後、水や食料品を持参して支援に駆けつけてくださった皆さんありがとうございました。泥だらけだった診療所がみるみるうちに綺麗になり、支援隊の皆さんの努力に感謝・感謝でした。今でも津波の爪跡があちこちにあり心が痛みます。でも、全国の皆さんが私達を応援してくれる事を支えにして、明るく頑張ろうと思います。

介護相談センター 佐々木初代

私は震災時、デイケアの利用者さんと一緒に避難し夜を共にしました。余震が続く中、世の中の事もよくわからぬまま.....

この先の不安も抱えつつ.....

そんな震災後すぐ、余震もまだまだ続くこの被災地に、全国から支援の方々に駆けつけていただき、私たちの手が行き届かない所や気がつかなかった事など大きな支援をしていただきました。本当に心強かった事を覚えています。ありがとうございました。

このお礼は、私たちが皆さんの思いを忘れず復興することだと思って頑張っています!!

これまでも、これからも!!

通所リハ 引地真美

震災直後から支援に来てくださった皆さんありがとうございました。皆さんの支援のおかげで私達も頑張ることができました。新年度より新天地で皆さんと共によりよいデイサービスを目指して頑張っていきたいと思っています。本当にありがとうございました。

通所リハ 山崎洋子

あちこちと避難生活をおくり、5月中旬から仕事復帰となりましたが、それまでに全国から支援に来ていただいた方から阪神淡路大震災、中越地震などを経験してのアドバイスや励みの言葉・たくさんの方の労力をいただきありがとうございました。

津波で家が全壊した私には全てが一からのスタートとなり、支援物資や義援金もいただき感謝しております。一步一步前進するよう、夕方には反省会を開き、利用者様にも楽しみや笑顔が戻ってきました。

全国の皆様にお返しできるよう精一杯頑張っています。

通所リハ 相沢貞子

皆様のご支援に、心から感謝します。

あの時期に、職場や家を空けることがどんなに大変だったことか...来て下さった方、それを支えて下さった方、本当にありがとうございました。

通所リハ 藤野あさ子

全国の民医連の皆さんへ

3月11日 今まで体験したことのない揺れで必死にデイケア

の利用者さんの車椅子をしっかり持ち、飛んできたコピー機などを片手で押さえ揺れがおさまるのを待っていたことを思い出します。

不安と絶望の中、日に日に増える全国の仲間

から支援や物資。何度かくじけそうになりましたが仲間がいることでホントに心強く頑張ることができました。

まだ、まだ、これからも大変ではありますが、亡くなった仲間の分も頑張っていきたいと思えます。今、日本のあちこちで地震があります。皆さんもホントに気を付けて下さいね。早いもので、半年がすぎようとしています。季節はすっかり変わり松島では元気に蝉が鳴いています。日本三景松島に今度は遊びにきて下さい。本当にありがとうございました

本部事務 佐藤敦子

震災から6ヶ月、一番大変な時に皆さんのお手伝いをいただいたおかげで、今は、エレベーターも動き、毎日デイケアで利用者さんと楽しく笑って過ごせる喜びを感じています。本当にありがとうございました。時々、強い地震があり、ドキッとすることもありますが、スタッフ一同協力してがんばっています。

通所リハ 阿部しのぶ



あの恐ろしい震災から6ヶ月が過ぎようとしています。皆さん誰もが色々な思いを胸に秘め生活していると思います。

その中で顔も見たこともなく会った事もない方々がボランティアとして来て下さいました。あんなに大きな災害があった後、またいつ地震がくるのかわからない状況にもかかわらず、少しでも手伝いたい、少しでも役にたてたらと言い支援して下さいました。すごく人の暖かさ優しさを感じました。

私も「皆さんに負けないよう頑張らないといけない」と強く思いました。本当に皆さんの勇気や優しさ忘れませんありがとうございました。

訪問看護ステーションまつしま 金谷美幸

私の家は、東松島市でした。1階は、160cmの津波が入りました。家の中にあったものは、家電など全く使えませんでした。服もなく、店も開かず、物資が入らない状況。子供も津波につかり、かろうじて保育所の先生が高いところに上げて命は助かりました。

しかし、子供は、新東名（自宅）に帰ると1週間ぐらい失禁が止まらず、体調を壊して、今でも通院をしています。

家族はみんな「命」は助かりましたが、身体的に体を壊しています。地震のたびに津波のことを思い出して泣いています。子供は保育所のお友達を失った悲しみを抱えています。震災後、息子が「生きていることが幸せなんだよね？」と話すようになりました。子供にとって生きるとは何なんだろうか？ と考えされた震災でした。

医療生協の皆様には物資をいただきありがとうございました。貰った服や靴は今でも使わせてもらっています。少しずつですが息子と手を取り合い前向きに生きていきたいです。

通所リハ 今野和恵

全国のたくさんの方に支援をしていただいたおかげで「おたしゃディ」も再開することができました。毎日、利用者さんの明るい笑顔を見ながら、声を聞きながら楽しく過ごせることに、心から感謝しています。本当にありがとうございました。この震災が日本中、世界中で最後の災害になることを願っています。

通所リハ 石川 元

私が住む東松島市野蒜地区の被害は甚大でした。幸い家族4人の命は助かりましたが、家は流失、夫の両親は亡くなってしまいました。震災当初は住み慣れた町や家の状態の悲惨さにただただ呆然.....でも、不明だった義母の捜索に必死でした。5ヶ月過ぎた今は、仮設の生活にも慣れ(?)、9月におこなう義父母の葬儀の準備にとりかかっています。

全国の皆様からの励まし支援.....

どれだけ心強かったことか.....

本当にありがとうございます。

松島医療生協も、私も....一步一步前進していきます。

歯科 大崎悦子

震災当日、認知症対応型のグループホームに訪問中でした。だんだん揺れが大きくなり、体験した事のないような強く長い地震でした。入所者や



職員の悲鳴が聞こえる中、いっこうに収まらない揺れに恐怖だけが募りました。

所長へ連絡をしてもつながらない携帯電話。状況が掴めない中、大津波警報を知らせる防災無線に耳を疑いました。やっと所長と連絡が取れ、お互いの安否は確認出来たものの津波がきているから戻

るなどの指示。自分の職場に何が起きているのか想像もつきませんでした。

震災から5ヶ月が経ち、生活は落ち着きを取り戻したかのように見えますが心の傷は癒されることはありません。

私達は今回の震災で3人の同僚を失いました。あまりにも突然で悲しすぎる別れでした。苦楽を共にした仲間でもあり、今でも夢に出て来ます。悪夢のような出来事は忘れられません。震災の日は雪の降る寒い日でしたが、透き通るような星空が臉に焼き付いています。

最後になりましたが、震災直後から支援して頂いた皆様方本当にありがとうございました。

訪問看護ステーションまつしま 大類純子

私はあの地震の時職場にはいませんでした。

4日後、職場に行くと泥だらけの悲惨な状況を見て、これからどうなるんだろうと、不安になりました。でもつぎつぎに応援にきてくれる仲間がこんなにいるんだと勇気づけられました。震災が起きる前にはもどれませんが、全国から応援していただいた皆さんに感謝しこれからも頑張っていきます。



事務 富久久美子

いつ収まるのかというほど長かった巨大地震、津波避難途中の吹雪とその後の嘘のような晴れ間と夕暮れ、ラジオに耳を傾け眠れずに杞憂した一夜、次の日の朝、水没した診療所を見て感じた虚脱感。機材全て塩水に浸かり、再開は当分無理と感じつつヘドロかきをしていた中、全国支援が入りました。診療できなくとも立ち止まらずに地域に貢献出来たおかげで、再生に向け夢や希望を繋いでもらいました。結果として歯科の規模は縮小しましたが新たな目標に向かい一歩踏み出すことが出来ました。本当にありがとうございました。

歯科事務長 高橋康則

自分の身には降りかかることはないと思っていたまさかの震災。

本当に先が見えなくなるような目の前の風景に涙が出るばかりでした。

そして多くの支援をいただき、声をかけていただく、又、涙・涙と.....

「復興」と少しずつ元に戻るよう一人ひとりの気持ちも変わってきている今日です。

たくさんの支援ありがとうございました。忘れません。

通所リハ 桜井千恵美

支援に来ていただいた皆さんには、本当に助けられ励まされました。

松島のために一緒に頑張ってくれてありがとうございました。

歯科 吉田由香

あの大震災から6ヶ月。半年と言う人もいるが、今日までの一日一日の取り組みを考えると、日数にすれば同じだが半年と一口で言い表せない気がします。

震災後、避難先で、そして診療所2階へ移動しての診察開始、全国の支援隊の仲間たちのヘドロとの格闘、被害地域への訪問活動、エレベーターやレントゲンの機械など浸水のため使用不能になった機材。毎日毎日の極限の闘いがあるといえます。全国の仲間みなさんに感謝・感謝。

6ヶ月が過ぎた今でも我が家は半壊、実家は全壊の証明書だけ、まだ見舞金どころかガレキの撤去も手つかずの状態です。一日も早くあれから何年過ぎたと話せる日が来ることを望みながら毎日過ごしています。

本部 佐藤 広



東日本大震災において、全国の皆様より、沢山の義援金や支援物資をいただきありがとうございました。また、わざわざ松島までかけつけていただき、診療所の片付けや地域訪問など、沢山の皆様のご支援にとっても感謝しております。

歯科は残念ながら縮小となり、スタッフも半減しさびしくなりましたが、久中所長はじめスタッフ全員で予算達成に向け連日頑張っており、黒字計上することができました！！

ご支援の皆様からいただいたありがたい励ましの言葉を胸に引き続き公私共々頑張りたいと思います。

歯科 赤道友恵

患者さんに「津波上がったのがわからない位きれいになってるねえ」、「よく頑張ってここまできれいにしたねえ」と言われるたびに、震災後すぐに大変な泥かき等を手伝っていただいた皆様のおかげで今があるのだと、感謝しております。これからも皆様からのご恩を忘れずに、頑張りたいと思います。

歯科 小野寺みゆき

私は、地震と津波で愛する自分の居場所と目標そして、大事な人達を失ってしまいました。

六ヶ月たった今でも地震がくるたびに不安定になってしまいます.....。

全国から沢山の皆様が支援に来てくださって施設が綺麗になっていたり、私たちの活動を応援してくださり、とても感謝しています。

周りはどんどん新しい道を目指し進みだし、明るさも増えています。

自分は支援していただいた方々や亡くなってしまったみんなの分まで頑張ろうという気持ちが少しずつ持てたり、落ち込んだり不安定で、未だにあの日から前に進む事が困難で、現実を受け止められません。それでも同じ悲しみと時間を過ごしてきた松島医療生協で立ち直っていける様に日々を全力で過ごします。これが今の私の気持ちです。



木の実（研修出向先のデイサービス）の皆さんは、とても優しく言いたくないことも、詳しく聞く事もせずに優しく接してくれます。この前の地震（8月）でパニックになり、迷惑をかけてしまったのですが、皆さんは「大丈夫」気にする事ないよと、暖かく接して下さいました。

通所リハ（研修出向中）西塚美香

宮城、松島への支援に来てくださった皆様、本当にありがとうございました。沢山の大切な人を亡くし、物を無くし、場所を失ってしまいましたが、それでも、生きた・生かされた人々で新しい大切な場所を築こうとしています。

あの日を忘れずに、また、松島に来てください。お待ちしております。

通所リハ 鈴木悠子

同僚が亡くなり、街の変貌を目にし、泥だらけの診療所内、それに埋もれた機材を見ると先が見えず、不安だらけが膨らんでいきました。皆消沈していた中、支援に来てくださった笑顔とパワーで次の一步を踏み出すことができました。

泥床に膝をつき清掃していただいたこと忘れません。ガソリンをはじめとする支援物資、「次は何をしましょうか?」、「何が必要ですか?」等の言葉にも励まされました。「女性だけですけど……」と言って差し出してくれた腹巻「心」が温まりました。大切なものを失いましたが、大切なものを得た気がします。

本当にありがとうございました。

歯科 石川房子

3月11日の大震災からもう6ヶ月が経ちます。あの時の何ともいえない不安や恐怖感は一生涯忘れません。そんな時に全国から支援に来ていただきとても勇気づけられました。

本当にありがとうございました。

そして今、人数は少なくなりましたが、歯科のスタッフ一同一つとなり、日々、頑張っています

歯科 佐々木 藍子

震災後、直ちに全国から、沢山の方々に支援に来て頂き、松島も普段の生活を取り戻しつつあります。

組織での動きがまったく取れない状況の中で、組合員さんのお宅を訪問し、被害状況の確認や話し相手になっていただき、組合員さんも心強くとてもうれしかったとの声を聞きました。

組織も被害の大きかった地域の組合員さんの所在確認に追われる毎日ですが、皆様の支援や義捐金、暖かいメッセージで励まされ組織活動部も活気を取り戻しています。本当にありがとうございました。



組織 佐藤美穂子

編集後記

「震災から6ヶ月、ありがとう！をカタチに140文字メッセージ」に込めた思いは次の二つでした。

- ① 支援をいただいた方々へ、ほぼ通常の診療・営業できるまで復興し、さらに新しい目標に向かって歩み出したことを報告し御礼を表したい！
- ② いろんな形で被災した職員が、今の思いを各自がつづることで、震災からの区切りの一つにしてほしい。また、職員それぞれが、同僚のその思いを共有しながら歩んで行けたらいい！

まだ、震災と向き合っている職員や、メッセージのカタチに整理できない職員も少なからずいることも分かりました。

これからも職員それぞれの「思い」を大事にしながら事業活動を行なっていきたいと思います。

今回の震災体験から「私たちはそもそも、何をしたいんだっけ?」(コムコムで連載されている「医療福祉生協の理念をつくろう!」)の問いに、あらためてみんなで考えてみたいと思います。職員の議論・討論の中から一つのゴールが導き出せたとき、私たちは、震災を克服し更に前進した松島医療生協になっていると思います。

介護事業担当 檀崎祐夫

「ありがとう！」をカタチに 140文字メッセージ

